

2025 年度 自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾
専門学校 麻生リハビリテーション大学校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、専門学校 麻生リハビリテーション大学校の2025年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2026年 1月 30日

学校名 専門学校 麻生リハビリテーション大学校

目次

I 教育理念・教育目標(育成人材像).....	- 3 -
II 重点項目.....	- 4 -
III 基準項目 自己点検・評価.....	- 7 -
基準 1 教育理念、目的、育成人材像.....	- 7 -
基準 2 学校運営.....	- 8 -
基準 3 教育活動.....	- 13 -
基準 4 学修成果.....	- 17 -
基準 5 学生支援.....	- 19 -
基準 6 教育環境.....	- 21 -
基準 7 学生募集.....	- 23 -
基準 8 財務.....	- 24 -
基準 9 法令遵守.....	- 25 -
基準10 内部質保証.....	- 26 -
基準11 社会貢献・地域貢献.....	- 27 -
基準12 国際交流.....	- 28 -

評価結果

- 3:基準を満たしており、特筆すべき取り組みを行っている
- 2:概ね基準を満たしている
- 1:基準を満たしておらず改善が必要

I 教育理念・教育目標(育成人材像)

【教育理念】豊かな人間性を備え専門職としての誇りと自覚を有する人材を育成し、社会に貢献する」

【教育目標(育成人材像)】

(理学療法学科)

「時代変化に対応し、医療・介護分野など幅広い分野で活躍できる人材を多く育成する。」

医療および介護分野をはじめ様々な分野で理学療法士が活躍しており、社会情勢の変化に応じてさらに専門職としての役割が求められている。理学療法学科では、理学療法士としての高い倫理観とセルフマネジメント能力をもった社会人を育成する。また多様化する社会に対応できる幅広い視野を持ち、理学療法士としての視点から社会に貢献できる人材の育成を目標とする。

(作業療法学科)

「人々の健康と幸福を促進し多様化する社会に貢献できる作業療法士を育成する」

社会人として豊かな人間性と高い倫理観を持ち、ワークライフバランスを実現し社会人としての責務を果たすことが重要である。特に作業療法士は高度な知識と専門技術を発揮し保健・医療・福祉・教育・職業など広い分野での貢献が求められている。更に、他者と協働し多様化する社会・対象者に柔軟に対応し、作業療法を通して人々の健康と幸福を促進する人材の育成を目標とする。

(言語聴覚学科)

「多様化する社会の健康と幸福へ貢献できる言語聴覚士を育てる」

言語聴覚分野の保健・医療・福祉を担う医療専門職は、高度な知識・専門技術に加え、豊かな人間性、高い倫理観、柔軟なコミュニケーション技能が求められる。また、医療の急激な発展、専門化、高度情報化、国際化に対応するためには、終身学習と反省的実践が不可欠である。本学科は、多様化する社会・対象者に柔軟に対応し、リハビリテーションを通して健康を維持増進することで、目の前の患者・患児様一人ひとりの生活の質の向上に寄与し、延いては社会全体の幸福へ貢献できる言語聴覚士を育成することを目標としている。そのために、学生と教員がアサーティブコミュニケーションを取り、互いの固定観念や既成概念を認識し、変容することを恐れない心理的安全性を確保していく。

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

- 1) 初年度教育の充実
- 2) 授業力強化
- 3) 職業実践教育
- 4) ICT化の推進による業務の効率化
- 5) 多様化する学生への対応
- 6) 教員の働き方改革(働きがい改革)

2. 取組み状況

1)初年次教育の充実

初年次に基礎学力不足で学修不適應に陥らないように入学前より課題を課し、入学後は日々の学習や復習の取り組みとして be ノート(学習状況の記録シート)を今年度も活用し、基礎学力の向上・学習習慣の醸成を行った。また、入学当初には基礎力リサーチによる基礎学力・学習方略・学修意欲・職業意識などの多面的な調査とともに個別面談を実施し、個別指導が必要になる学生を抽出し、個別学習指導を行った。リメディアル教育としては基礎学力向上・学習方法の習得を目指し「文章力講座」をセミナーとして行った。さらに多職種連携教育(IPE)を開催し、多職種を理解することで今後のチーム医療の必要性を理解する授業を行った。

2) 授業力強化

学生の理解度向上・主体性向上を身につけることを目的として、授業力強化の方針のもとアクティブラーニングを取り入れている。また LMS システムである「Manabie」や AI 活用を促し学習意欲向上とともに理解度向上に努めた。さらに前期・後期に自学科・他学科の授業見学を通じ、教員間の授業に関するコミュニケーションを拡大し、個々の授業力向上に努めた。非常勤講師との面談を行い、教育目標や授業デザインの改善に努め、授業力強化に努めた。

3) 職業実践教育

学生自身の将来像の育成、学修意欲向上を目的に、臨床現場の特別講師を招聘した臨床連携教育や当事者(患者様)の授業参加、早期臨床実習を行った。またプロスポーツとの連携や保育園・小学校・公民館での実習を通し社会におけるセラピストの役割についてキャリアイメージの醸成を図った。

4) ICT化の推進による業務の効率化

業務効率化のために可能なものから順次 ICT 化している。教職員・学生向けにコミュニケーションツールとして Microsoft Teams を利用し、学校案内・授業連絡など教育環境充実に努めた。授業チームや国家試験対策チームでは授業動画の配信による復習・予習を促した。今年度も引き続き出席アプリを導入し出席管理を行うとともに、毎授業時間に理解度アンケートを実施し授業の理解度を確認した。

授業ではLMSアプリである「Manabie」の利用やAIツールの活用により授業効率化を図った。業務面では定期試験結果の配信をICT化することで効率的な運用が可能となった。

就職支援として今年度もCareer Map(就職支援システムアプリ)を活用することで、企業登録、学生への周知、就職活動の支援を行った。

5) 多様化する学生への対応

近年、適応障害や発達障害など友人関係や学修に不適應を起こす学生が増加している。従来の学生相談(1回/週)では対応が十分でない課題があった。学科ごとに学生相談担当教員(学生サポート委員)を配置し、1~2か月に1回の委員会を開催、サポートが必要な学生について共有、対応策を検討し、実際の支援に役立てている。学内学生相談「なないろ」を今年度も継続した。学内学生相談「なないろ」では個別学生相談だけでなく、学生ピアサポート「あそびあ」を組織し、学生同士の支えあいとして、学習会を定期試験前に開催した。また図書室の一角にクラスになじめない学生の居場所として「ほっとステーション」を設置し今年度も継続し、学生の安らぎの場を創出している。

6) 教員の働き方改革(働きがい改革)

担任業務の負担軽減として副担任制・メンター制など各学科での特色に応じた対策を行った。業務の負担軽減としては年間業務スケジュールを作成し、業務のマニュアル化・汎用化を行えるよう構築した。さらに、研修等への参加によって、教員個人の専門性、資質・能力を向上させることが、働きがいを持って業務に臨めることにつながるような取り組みを行うことを目標とした。「リフレッシュ休暇制度」を創設し、各自連続3日間の休暇を取得できるように行うことで、職員の心身の負担を軽減し、働きがいの向上を図っている。

3. 総括(成果と課題)

1) 初年度教育の充実

be ノート(学習状況の記録シート)を今年度も活用し、1年生全員の提出を促したことから、早期から学習習慣の獲得、教員とのコミュニケーションが強化できた。基礎力リサーチの得点で抽出した学生の指導を中心に個別に面談を行うことで早期に課題が把握でき、退学防止へつながった。文章力講座では検定試験を受験することで目標を持ち取り組むことができた。

IPEでは学科を超えたコミュニケーションが図れ、各学科相互の専門性を知ることで将来のキャリアイメージを形成することができた。

2) 授業力強化

アクティブラーニングを用いた授業展開の中で、LMSやAIを活用することで、主体的に授業に取り組むことができ、習熟度に応じた授業構成が可能になった。授業見学会では教員相互の授業を見学できたことで、教員間のコミュニケーションが図かれ授業力の向上ができた。また非常勤講師との面談では授業の環境や学生の授業態度などを聞き取ることができ、授業内容が改善できた。

3) 職業実践教育

専門科目において病院のセラピストや当事者を招聘し、臨床に則した授業を行ったことは授業に対するモチベーションの向上やキャリアイメージの醸成につながった。

社会的にはスポーツ大会などでトレーナーブースを開設し、実際に対象者へサービスを行うことができた。ま

た、保育園や小学校支援学級での実習や公民館での体操教室に参加しプログラムを提供することで社会における専門職の活躍を確認でき自信と成長につながった。

4) ICT化の推進による業務の効率化

学生向け Microsoft Teams を活用して、学習やコミュニケーションを促す取り組みを行い、授業資料や参考文献の配布、学生連絡など業務効率化が図れた。LMS アプリである「Manabie」やAIの活用では動画の使用や授業ごとのアンケートを効率よく行うことができ授業の質向上につながった。

業務効率化では、出席アプリ(CAMPUS 手帳)を引き続き利用し、出席率算出を毎週共有することで早期に学生指導が行われた。Career Map(就職支援システムアプリ)では求人票の入力作業や学生への周知業務の効率化が図れた。

5) 多様化する学生対応

学内学生相談「なないろ」では学科の学生支援担当教員や担任と積極的に連携し、学生の個別相談を強化することで安心した学校生活に貢献できた。また、ピアサポート「あそびあ」の組織は学生ボランティアとして、学習会を開催することで、他学生の学習意欲向上、学力向上が図れた。

合理的配慮が義務化されたことにより、合理的配慮委員会や書類の整備などの組織づくりを行った。合理的配慮委員会では3件の申請があり、学生への配慮が行えた。

6) 教員の働き方改革(働きがい改革)

担任と副担任の業務分掌を作成し、担任の業務負担を軽減できた。また年間スケジュールを作成することで業務の見通しが持て、学事や授業準備の効率化が行えた。また、今年度も3日間のリフレッシュ休暇制度では、計画的な休暇取得ができ、教職員の心身の負担を軽減でき、働きがいの向上を図れた。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

中項目1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【取り組み状況】

教育理念、目的、育成人材像、ディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP)、アドミッション・ポリシー(AP)、学科毎の教育目標(育成人材像)を定め、学生便覧に掲載するとともに、学生・教職員へ周知している。またホームページで公表している。非常勤講師に対しては講師会を実施し、臨床実習指導者に対しては臨床実習指導者会議を行い周知している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	2
1-1-2	各学科の教育目標(育成人材像)を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	2

=====
基準 2 学校運営
=====

中項目2-1

学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか。

【取り組み状況】

学校の教育理念に沿った運営方針を以下のように策定している。

[今年度のビジョン]

- ・お互いが尊重でき、仲間とともに成長し、将来像が描ける学校
- ・働き方改革→働きがい改革へ

本校の教育理念に沿って上記ビジョンを設定した。

[重点施策]

- 1)初年度教育の充実 2)授業力強化 3)職業実践教育 4)ICT化の推進による業務の効率化
- 5)多様化する学生対応 6)教員の働き方改革

ビジョンの実現のために以上の6項目の重点施策を定めた。

責任者会議をはじめ、月に一度の全体会で重点施策について報告、関連するテーマでディスカッションを行い教職員に周知し成果を確認する取り組みを行っている。

【課題及びその改善方策】

特にないが、時代の移り変わりとともに変化していくなかで、具体的な施策は見直しを行う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	3

中項目2-2

事業計画を作成し、執行しているか。

【取り組み状況】

運営方針に沿った事業計画を各学科で策定し、責任者会議で確認している。

[重点施策]

- 1)初年度教育の充実 2)授業力強化 3)職業実践教育 4)ICT 化の推進による業務の効率化
5)多様化する学生対応 6)教員の働き方改革

以上6項目の担当者を定め、事業計画策定・実施した。各学科では事業計画をフロー図に落とし込み、会議時に定期的に報告を行い進行状況の管理・目標修正を行い適正に実行された。

責任者会議をはじめ、月に一度の全体会で重点施策について報告、関連するテーマでディスカッションを行い教職員に周知し成果を確認する取り組みを行っている。

【課題及びその改善方策】

特にないが、時代の移り変わりとともに変化していくなかで、具体的な施策は見直しを行う。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	3
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	3

中項目2-3

運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。

【取り組み状況】

法人において明文化された運営組織および意思決定機関の仕組みのもとで運営されている。理事長・常務理事・理事・本部長・監事が参加する常任理事会が適宜開催され、組織運営上の重要課題について合議がなされている。

また、校長代行が参加する部門長会議等、各階層別・目的別の会議体が設計されており、これらに参画し、法人方針の共有と学校運営への反映を行っている。会議は計画的に開催され、有効に機能している。

本校では、責任者会議を毎週開催し、学事運営やカリキュラム、学生指導などの意思決定を行っている。またその内容は毎週行われる学科会議にて共有を行っている。また重点事項に関しては全体会議を月に一度行い共有を行うようにしている。

事務組織は事務長を中心に学生課・経理・総務・教務事務担当者を配置し、教員との連携を十分に行い学生サポートを行っている。

事務職員の能力向上については、担当業務に必要な知識及びスキルと本人の意欲を鑑みたくて、個人の目標設定に取り入れ、勉強会や研修への参加を促している。

【課題及びその改善方策】

課題はないが、研修会未参加の職員に対する研修機会の促進を行い、能力向上に今後も務めていく必要がある。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	2
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	2
2-3-3	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に行われているか。	2
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	2
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	2

中項目2-4

人事・給与に関する制度を確立しているか。

【取り組み状況】

法人で整備された雇用区分ごとの就業規則および各種人事諸規程、労使協定に基づき運営している。これらは法令を遵守して整備されている。また、法人の運営方針や労働関連法令の改正に応じて規程の見直し・改定が行われており、その内容を教職員へ周知し、適切な運用に努めている。

法人で定められた給与規程(または一部雇用形態については就業規則)に基づき、法令を遵守した給与制度のもとで運用している。これらの規程は法人内共有フォルダ等を通じて教職員に公開されており、本校においても透明性の確保に努めている。

法人で整備された昇給・昇格制度を含む人事制度に基づき運営している。制度内容は教職員に公開されている。また、法人の基本方針を踏まえつつ、社会情勢や物価動向等を勘案し制度の見直しが適宜行われており、その運用において公平性・妥当性の確保に努めている。

法人で定められた採用規程に基づき、適切な募集・採用を行っている。採用にあたっては、当該部署の責任者が採用稟議を起案し、求める人物像を明確にしたうえで選考を実施している。また、法人本部および関係部門と連携した採用体制のもと、面接から内定判断まで規程に則って運用している。さらに、選考状況や内定辞退の状況等を確認し、採用プロセスの妥当性について検証を行っている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	2
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	2
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	2
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	2

中項目2-5

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

ICT化推進を行い業務の効率化を行っている。具体的には以下の4点である。

- 1) 出席アプリ(CAMPUS手帳)の継続と週ごとの学生出席管理状況の共有
- 2) 授業報告書を、Microsoft Teamsにて共有
- 3) Manabieを用いた学レポ実施の推進
- 4) 就職関連管理業務および提出資料のICT化

上記取り組みはDX担当者を配置し、様々な業務に対するDX化の提案を行い業務支援が行われている。

以上の取り組みにより、学校教育活動・職員の業務効率化が図れた。

【課題及びその改善方策】

課題はないが、2026年度は時間割管理、出席管理、学レポの全授業での導入など、更にManabieの活用を推進していく。そのための体制構築や研修会の実施、非常勤講師への説明を実施する。マニュアル化やサポート担当者などの普及啓発は継続する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
2-5-1	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。	3

=====
 基準 3 教育活動
 =====

中項目3-1

教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【取り組み状況】

学校の教育目標(育成人材像)に基づき策定した、学科ごとのディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを明示し、ホームページで公表している。学生には「学生便覧」配布、新入生オリエンテーション時に説明し周知を図っている。

作業療法学科ではディスカッションの到達度についてルーブリック評価を学生に自己評価させ、その後ディプロマポリシー面談を実施した。更にディプロマサプリメントを本年度より作成した。言語聴覚学科ではディプロマポリシーHRを実施した。理学療法学科では、ディプロマポリシーの見直しを行った。

【課題及びその改善方策】

更に良くしていくためには、全学科でディプロマ・ポリシーを意識した取り組みを行うことや、今年度行った個別面談や HR の効果検証を行い、取り組みを横展開していく。また作業療法学科では今後ディプロマサプリメントを臨床実習指導者との学生情報共有のツールとして使用することを試みる予定である。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-1-1	教育目標(育成人材像)に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	3
3-1-2	教育目標(育成人材像)に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	2

中項目3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行っているか。

【取り組み状況】

各学科における教育課程・教育内容は厚生労働省の指定規則を遵守し、カリキュラム・ポリシーに基づき授業科目を開設している。非常勤講師を含め、教科毎のシラバスを作成し、ホームページ(HP)上で公開している。コマシラバスについては各科目で作成し、授業後振り返りを行っている。

臨床実習(実践的な職業教育)は、厚生労働省の定める指定規則に基づき、病院、福祉施設などと連携して行っている。

Microsoft Teams を活用して授業報告書を用いて、非常勤講師とのタイムリーな連携に加えて、半期に一度面談を行い、情報を全学科で共有した。

次年度に向けたカリキュラム改定を行い、GCB 教育の見直しや作業療法学科ではインクルーシブ社会学の追加を

行った。インクルーシブ社会学では多様性を認め合うということを重視し、障がい者、外国人、LGBT 当事者の語りを内容に取り入れていく予定である。言語聴覚学科はカリキュラム改定にて、「コミュニケーション学」「教育方法」「倫理学」など、非認知能力に関係の深い科目を配置した。

教育課程の編成、授業、演習および実習の内容については、医療機関および外部有識者を含む教育課程編成委員会を通じて見直しを毎年行っている。その結果、多職種連携教育(IPE)の推進、eラーニング、アクティブラーニングを活用した授業が数多く導入された。

キャリア教育として、GCB教育(グローバルシティズン・ベーシック教育、麻生塾独自のキャリア教育プログラム)を1年次の時間割に組み込み、日々の指導に加え、マナー教育などにより学生の社会的・職業的自立に必要な能力や態度を育成している。

【課題及びその改善方策】

課題はないが、新たに配置した非認知能力関連科目の教育的効果を振り返って質の高い教育内容を目指していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-2-1	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	2
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容(学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等)が提供されているか。	2
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	3
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	2
3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	2
3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	2
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	2
3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	3
3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	2

中項目3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【取り組み状況】

授業アンケートを年2回、全ての専任教員、非常勤講師に実施している。同アンケートの結果に基づき専任教員に対しては、面接・指導し改善策を指導した。非常勤講師へはアンケート結果をフィードバックした。

専任教員に関しては、改善計画書をもとに改善活動を行い、管理職と計画を共有し、管理職がその進捗を管理し

ている。

引き続き授業の改善の取り組みとして、教員が自らの授業を教職員に公開し、授業の良い点や改善すべき点等について相互に意見交換する取り組みを、学科を超えて行っている。

【課題及びその改善方策】

今年度授業アンケートの改定を行った。アンケート内容を振り返り、アンケートの有用性についても精査していく。更に良くするために、客観的な授業評価ができるツールの検討を行う。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	2
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	2
3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	2
3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	2
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	2

中項目3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【取り組み状況】

成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確に定め、学生便覧にて学生に周知している。また、進級判定・卒業判定は、学校で規定した基準にて適切に実施、記録されている。

保護者に関しては保護者会で成績評価規程や進級卒業判定規定を説明し、成績に関しては各期で通知書を郵送している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	2
3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	2

3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	2
-------	--------------------------------------	---

中項目3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

関係法令に基づき、厚生労働省の資格要件に定められている事項に留意し、業界の専門性及び経験、必要な資格・教育に対する意欲等を持った教員を採用し、必要な人員を確保している。教育目標の達成や人材育成がスムーズに行われるように教員の組織体制を整備している。

また、新任者、中堅者、管理者ごとに専門分野や担当分野に関する学会、研修会に参加し、教育力の向上を図っている。全国リハビリテーション学校協会主催研修をはじめとして教育関連研修には毎年教員が参加し、研修会への参加後は報告書の一部を必要に応じて全体に共有している。加えて、授業力向上、ICT化の部門内勉強会を開催した。

全教員が企業と連携した「医療機関研修」を週に1回定期的に実施しており、専門領域分野での研鑽を図っている。

【課題及びその改善方策】

特になし。更により高度な職務を遂行するために、必要な知識技能を獲得できるようにし、適宜その効果検証を行う

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	2
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	2
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	2
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。	3
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	2

=====
 基準 4 学修成果
 =====

中項目4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【取り組み状況】

就職率向上に向けて、担任および就職担当者と連携し、就職活動の促しから面接指導まで実施し、就職指導・支援を行っている。さらに就職活動をスムーズに実行できるように最終学年次に Career Map(就職支援システムアプリ)を導入し、タイムリーな求人情報の提供ができた。

退学率低減の取り組みは、学内学生相談「なないろ」にて、継続的に悩みの相談や安心した学校生活を送れるよう支援できる体制作りを行っている。

退学防止や国家試験合格に向けて1年次からリメディアル教育教材を導入し、入学前教育の徹底と授業スタート前に学力確認テストおよび、学修へのモチベーション向上を図るための取組みを実施している。そのデータをもとにそれぞれの学生の学力を把握し、個別指導を行うなど、国家試験に向けた取組みを行っている。

また、最終学年での国家試験対策については、個別的、能動的、効率的に学習できるように、オンラインを併用したグループ学習およびチューター制度等を行っている。

それぞれの教科で授業内評価や小テストを適切に配置し、授業途中の評価について学科会議などで共有することで達成状況を把握し、個別指導や補講などを適時行っている。

【課題及びその改善方策】

特になし。今後も継続して各学科での取組みを全体会議で共有し、パフォーマンスや自己評価の低い学生の学修意欲、職業意識向上につなげていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	2
4-1-2	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取組みを行っているか。	3
4-1-3	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	3
4-1-4	資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	2

中項目4-2

卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【取り組み状況】

卒業生に関しては入職6ヶ月後のアンケートを実施している。卒業生の所属長または人事担当者により「人間性」「専門性」の側面を評価していただいている。無記名で行うため個人的な評価とはならないが、結果は教職員へ共有し在校生の教育に生かしている。

【課題及びその改善方策】

特になし。今後も継続し回答者にアンケートの趣旨を理解していただき、負担にならない質問数、回答しやすい設問を工夫し、回答率アップにつなげていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	3

=====
基準 5 学生支援
=====

中項目5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

就職活動支援として Career Map(就職支援システムアプリ)及び就職ガイドの利用を促進し、情報収集の効率化と就職活動のルールの浸透を促した。また就職活動への動機付けおよび入社後の離職防止を目的に、臨床実習前・後に各領域の現職者による特別講義を実施した。講師には臨床のエピソードを交えて、「自身のキャリア形成」「やりがい」「醍醐味」「苦勞」などの経験を伝えていただく機会を設けた。

学生相談に関しては臨床心理士による専門相談を 6 回/月行っている。また常勤職員による学生支援室「なないろ」を設け常時相談・サポートできる体制づくりを行っている。「なないろ」では学生の居場所づくりである「ホットステーション」や学生ピアサポートである「あそぴあ」を運営し、精神面や生活面など幅広い学生支援を展開している。

経済的困難に直面している学生に学校法人として校納金の納入期限延長、種々の生活支援制度を備えた。

健康管理の面においては入学時に 5 種類の感染症に関して抗体検査を実施し、抗体値が低いものに対しては学校での予防接種の機会を設け、ワクチン接種を推奨している。健康診断は年 1 回実施している。

社会人学生への支援としては専門実践教育訓練給付金の紹介とその手続きの支援、アルバイトの紹介等を行っている。

保護者等とは学校の様子を発信する「ASO journal」を 3 回発行し情報共有を行った。

また、生活環境への支援として、直営寮・提携寮を完備している。寮監を配置し、定期的に学生の様子を報告してもらう仕組みを取り入れている。

学生の課外活動はクラブ活動を発足し、専門学校体育大会に参加している。またボランティア活動については随時情報発信し参加を促している。

新入生に対するリメディアル教材を使った入学前教育を行っている。実施後の評価を元に、学修支援が必要な学生に対してはノート作成の指導を実施した。be ノート(学習状況の記録シート)の導入および「文書力講座」を実施し、また全学年を通して学習習慣が定着する取り組みを行った。

【課題及びその改善方策】

更に良いものとしていくために、入学時の基礎学力、学習習慣と方策、モチベーション(進学意欲、学修・職業意識)について情報収集および分析を継続して行い、担任との面談状況、講義の中での確認テストなどの結果、学校生活の様子を統合し情報について共有する体制作りを行っていく。また、各学科で行われている補習教育について情報共有し、多様な学修支援に結びつけていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	2
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	3
5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	2
5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	2
5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	2
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	2
5-1-7	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	2
5-1-8	社会人学生への支援体制を整備しているか。	2
5-1-9	学生に対する修学支援体制を整備しているか。	2
5-1-10	入学前教育や学力不足を補う補習教育などの学習支援を行っているか。	3

=====
基準 6 教育環境
=====

中項目6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【取り組み状況】

施設・設備については指定規則において必要な施設基準、備品が明確に定められており、当校は第三者評価においても満たされていると評価されている。

教職員による機材・備品の棚卸しを年 1 回実施し、適宜修理補充している。

図書についても同様に指定規則に基づき冊数、分野ごとの整備を行っており、学生が利用できる環境を整えている。蔵書のみではなく、医学文献配信サイト「メディカルオンライン」、「医書 jp」との契約により、在校生、教職員が医学文献の検索、全文閲覧、ダウンロードできる環境を整えている。また医学系漫画を増冊し、図書室や本に親しみやすいような工夫を行った。

【課題及びその改善方策】

特に課題はないが、今後も継続し点検・整備を行い、必要なものは購入を行うようにしていく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	2
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	2
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	3

中項目6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

実習に関しては、厚生労働省の定める指定規則に基づき、病院、福祉施設および学内で実習を行っている。その時間は1,000時間を越えている。実習開始前に行う実習指導者会議はリモートで実施し、教育目標、方法論の共有を図り、指導方法の統一化を図った。また、床実習指導者の育成のために、全国リハビリテーション学校協会と協力し、臨床教育指導者講習会を本校で開催した。

学内外の安全対策に関しては、福岡市消防局の指導に沿って防災・防犯設備の点検や避難経路の掲示等を実施している。また、万一の事故に備えて、学生災害傷害保険に加入している。安全管理マニュアルはファイリングし、事務所棚に保管している。教職員による防災・避難訓練は毎年年度末に実施している。

【課題及びその改善方策】

特になし。臨床実習施設に関しては毎年新たな施設との契約を行い、十分な教育体制を確保していく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
6-2-1	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	2
6-2-2	定期的に防災訓練を実施しているか。	2
6-2-3	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	2

=====
 基準 7 学生募集
 =====

中項目7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)についてはパンフレット・募集要項・ホームページへ掲載し、かつ広報担当者を通し、高校またはオープンキャンパスで周知している。

入学選抜では総合型選抜・推薦型選抜・一般入試の機会を設け、募集要項に沿って適切に実施している。遠隔地の学生や感染拡大のリスクに備え、遠隔入試を行い、受験者に不利のない受験体制を整えている。

入学者選抜においては受験後1週間以内に判定会議を行い公正に入学者選抜を行っている。

校納金等については経理上妥当な設定とし、募集要項に掲載したものをオープンキャンパスなどで周知した。オープンキャンパスでは今年度は保護者の参加が多く、毎回保護者説明を別途実施した。また保護者向けイベントを設け、経済状況に応じた支援の在り方などを説明する機会を作った。

【課題及びその改善方策】

特にないが、少子化で学生募集が厳しい現状の中、無理な入学誘導につながらないように適切に募集活動を実施していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	2
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	2
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	2
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	2
7-1-5	校納金(学生納付金)等は妥当なものとなっているか。	2

=====
基準 8 財務
=====

中項目8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えているといえる。

予算計画は、学校運営計画に即した編成を行っている。予算執行についても、計画に基づき適切に執行されているかどうか確認を行い管理している。

私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。

ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を公開している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	2
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	2
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	2
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	2

=====
基準 9 法令遵守
=====

中項目9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行っているか。

【取り組み状況】

関係法令、専修学校設置基準、厚生労働省規定の養成施設指定規則等を遵守し、適正に学校運営を行っている。
学内諸規程に基づいた管理運営を徹底するためにも、年初の全体会議で読み合わせ等を行い、学内規程に関する意識を高めている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

実習施設および臨床実習指導者の要件について情報の周知、共有を継続して行い、実習指導者要件となる厚生労働省指定の研修受講を勧めていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	2
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	2
9-1-3	法令遵守違反等に対応する体制を整備しているか。また、法令遵守等に関する研修・教育を行っているか。	2

=====
 基準10 内部質保証
 =====

中項目10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

学校教育、学校運営について、自己点検・評価の必要性を全教職員に伝え、評価結果を全教職員で共有する機会を設けている。毎年定期的に自己点検・評価を行ない、改善計画を作成し、課題解決に取り組んでいる。また、教職員向けに自己点検・評価委員によるレクチャーを実施した。

さらに外部有識者など学校関係者を構成員とする学校関係者評価委員会を開催し、学校関係者評価を実施し、教育活動及び学校運営の改善の取組みを行っている。自己点検・評価及び学校関係者評価の結果はホームページ上で公表することで社会に対する説明責任を果たしている。

また、今年度は5年毎行われる第三者評価(一般社団法人リハビリテーション学校評価機構)を受審しており、その結果は当該法人のホームページで公表されている。

【課題及びその改善方策】

今後第三者評価が義務化されることに伴い、積極的に質保証のための取組みを行っていく。

小項目	評価項目	自己点検・評価結果
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	2
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	2
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	2
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。	2
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	2

=====
基準11 社会貢献・地域貢献
=====

中項目11-1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

学生のボランティア活動は、教育ノウハウを活用した職業訓練や緊急雇用対策事業、NPO 法人・ボランティア団体等への支援、国内外からの教育施設見学受け入れなど、積極的に社会貢献活動を行っている。ワンヘルスセラピー犬派遣事業(福岡県)、アルツハイマーデイ啓発(福岡市)、ペットボトルキャップ回収(世界の子どもにワクチンを 日本委員会)、一人ひと花運動(福岡市)、学会運営などへ参加、協力を行った。

学生が主体的に参加した動画コンテスト「障害があるってどんなこと?ともに生きる」の活動への推進を行った。
また、教職員は、企業・地域・行政等の依頼を受け、出張講義・指導を行っている。

【課題及びその改善方策】

課題はないが、ボランティア活動の支援をさらに充実させるために、ボランティア活動における単位認定や行動基準の策定を検討する。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
11-1-1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	3
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	2

=====
 基準12 国際交流
 =====

中項目12-1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【取り組み状況】

現在中国からの留学生が1年次(1名)在学中であり、随時個別面談を実施し学修状況や生活状況について把握し必要な支援を行っている。また在留資格に関する手続きに関しても法人内で情報共有し管理している。今年度福岡県の医療法人へ内定したが、出入国在留管理庁と協力し、滞りなく就職支援が行われた。

麻生専門学校グループ内の留学担当部門が留学プログラムの学内説明会を行い、別途個別相談の場も設けている。申し込み者に対しては、オリエンテーションや英語勉強会を実施しており、また学生・保護者等向けの説明会では、渡航先情報や必要な準備、現地での心構え、たびレジ等の情報共有を行っている。学生とはチャット等の連絡ツールで常時連絡が取れるようにしており、質問や相談の受付、情報共有等を行っている。外部留学エージェント経由で留学する学生については、エージェントと渡航情報を共有し、必要に応じて学生本人や保護者等からの相談に対応している。

【課題及びその改善方策】

特になし。継続して海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に実施していく。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価結果
12-1-1	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	2
12-1-1	留学生の受け入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	2
12-1-2	留学生の学修・生活指導等に対する適切な体制を整備しているか。	2